

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2773001504		
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会		
事業所名	グループホーム飛鳥ともしび苑		
所在地	大阪市東淀川区東中島3-16-20		
自己評価作成日	平成 29年 1月 16日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokansaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2773001504-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokansaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2773001504-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 1月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「私たちは「毎日が敬老の日であり、こどもの日であること」を願い、地域の福祉増進に努めます。」を念頭に置き、職員全員で地域に根ざした施設づくりを目指しています。ご入居者の皆様には、外食や遠足等の多彩な行事を開催することで外出する機会を作り、日常生活においても、お1人おひとりの希望を伺いながらケアの中に取り入れるよう心がけています。また、希望される方に実施している「学習療法」では、認知症状とコミュニケーション機能の維持・改善に取り組み、職員との信頼関係を構築する機会にもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で実績のある社会福祉法人が運営するグループホームで、同じ建物内で生活支援ハウスを運営し、真向かいの老人福祉センターで介護保険サービス事業を運営し連携が図られ、地域との関係も良好です。また管理者は職員とよく話し合い、職員からの要望や提案などにも積極的に取り組み、職員が働きやすい環境作りに努力しています。明るくチームワークの良い職員は利用者一人ひとりの思いや希望に沿うよう思いやりのあるケアを実施し、外出にも力を入れています。利用者は恵まれた立地と建物、優しい職員に囲まれ、ゆったりとした生活をしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「普通の生活の為に思いやりを」を事業所理念とし、お一人お一人の役割、住み慣れた地域での居場所づくりに全員で取り組んでいます。	「普通の生活の為に思いやりを」を理念として定め、明示しています。定例の全体会議やカンファレンス、毎日の業務を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される行事には出来る限りご参加頂いております。また、職員も地域の防災会議に継続的に参加するなど交流の機会を増やし、地元の小中学生の体験学習の受け入れ等も積極的に執り行っております。	利用者は地域の夏祭り、敬老会、ふれあい喫茶などにはできる限り出席しています。日ごろの散歩、買い物の際にも地元の人と言葉を交わしています。職員は地元の防災会議に継続的に出席するなど、事業所は地元へ溶け込み、一員として活動しています。ドッグセラピー、音楽療法等導入して地域にも呼び掛けています。保育園の園児との交流や専門学校の職場実習生受け入れ、地元小中学校の職場体験学習にも協力しています。地元の人々を対象にした認知症関連の勉強会を開催するなど地域に貢献もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	実際の認知症ケアを活かした、同法人他事業所との合同研修や、事例検討会などを開催しています。 また、認知症介護指導者でもある施設長が講演を開催するなど、地域での活動の幅を広げていっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回(年6回)開催し、ご利用者のご家族、地域担当の民生委員や、地域社協会長等に集まって頂き、運営状況の報告や現在の地域の状況などの情報交換を行っております。	運営推進会議は大体2カ月に一回開催されています。構成メンバーは地活協(地域活動協議会)会長、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者・家族等ですが、特に家族の出席が得られていない状況です。会議では事業所の状況報告、行事の報告・計画、職員の状況、意見交換などしています。議事録は残していますが、家族には配布していません。	今後は運営推進会議の議事録を家族に配布するとともに、次回開催日を通知し、家族に対して運営推進会議への出席を促すようにされてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大阪市介護保険課はもとより、高齢者施策部高齢福祉課や区の担当職員とも常に連絡を取り合い、協力体制を築いています。	管理者は、大阪市や区の担当職員、地域包括支援センター職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。区のグループホーム事業者連絡会に参加し、交流をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働省発行の「身体拘束ゼロへの手引き」、「大阪府身体拘束ゼロ推進標準マニュアル」を元に、身体拘束廃止指針を制定し取り組んでいます。その他にも、内部研修等の場で身体拘束をしないケアの理解を深めるよう取り組んでいます。	職員は、年間計画に従い身体拘束廃止や人権などについて研修し、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関の鍵については、フロアドアを手動に切り替え、玄関扉は内鍵方式でひとつのボタン操作で開錠できるようにしています。外出を希望する利用者については見守りと玄関先の菜園のあるテラスでの外気浴や付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらない環境づくりに努めるとともに、虐待防止対応マニュアルを設置しています。マニュアルに基づいた職員への研修をはじめ、職員一人ひとりに目を向け、虐待発生防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業(あんしんサポート)をご利用の方、成年後見人制度をご利用の方がおられ、実際に職員と連携を図り、ご利用者の権利擁護に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や、退居される際には、ご本人をはじめ、ご家族にも十分な説明を行い、こちらからもご本人・ご家族ともにアセスメントをしっかりと行い、理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最低月1回ご家族が訪問される際には、現在のご本人の状況報告や、行事のご案内などをさせていただいており、その際にご意見やご要望なども頂戴しております。また、適宜文書でのお知らせなども行っております。	職員は、利用者の家族が少なくとも月一回支払いのため訪問する機会をとらえて状況報告を行い、家族の意見・要望などを聞くようにしています。中には用件のみで利用者には面会しない家族もあります。事業所からの「お知らせ」「便り」等は現在休止中です。クリスマスには家族に参加を呼びかけ家族会としています。	家族との接触がやや少ないのではないのでしょうか。家族の関心を深めるため、休止中の「お知らせ」「便り」等を復活し、利用者や事業所の状況、写真を添え、担当者によるコメント等を記載し、献立表、運営推進会議の議事録その他とともに、家族に配布されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期的に全体会議を開催。職員が自由に発言できる場を設けています。個別相談の機会も都度設けており、円滑な運営や、ケアの質の向上に努めています。	定例の全体会議やカンファレンス、ユニークな「気付きメモ」等を通じ、積極的に意見や提案ができ、管理者との対話もできています。また、管理者は休憩の時間や場所の確保などの職員が働きやすい環境作りにも努力しています。職員の自己評価に基づき、年2回の定期的な個人面談制度もあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回非常勤勤務者も含み全員の人事考課と面談の機会を設け、正当な評価に努めています。また、職員からの要望や希望等についても、できる限り反映し、働きやすい職場環境や、処遇の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修をはじめ、実践リーダー研修や他の外部研修にはその職員の能力や、技量に合わせ積極的に参加できるように配慮しています。 法人としても、法人研修を年間数回開催。同じ研修を数日間にわけ、職員全員が参加できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会や市老連のグループホーム委員会などに参加。情報交換等を通じ、交流を深めています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階でご家族を交え、ご本人の希望・要望をはじめ、できる限りこれまでの生活環境に変化が出ないように、生活歴等の情報収集に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の不安や要望については、職員全員が耳を傾け、納得が得られるまで十分に話し合い、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居する前に、ご本人やご家族よりニーズを確認し、担当の介護支援専門員や、他のサービス事業者より情報を収集。連携機関に相談しサービスの継続の協力を要請しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の居場所づくりを大切にし、日常生活においてご本人ができることとできないことを見極め、役割を持っていただいています。それにより良い人間関係が構築できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、できる限りご面会に来ていただけるようお願いをしています。来訪の際には、自室にて気兼ねなくコミュニケーションをとっていただけるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や地域の馴染みの方などの来訪も積極的に受け入れていません。また、行きつけのお店や、地元の神社へ参拝に出かける支援を行っています。	職員は利用者が馴染みの神社への参拝や喫茶店に出かける支援をしたり、旧友や地域の人がホームに訪ねて来るのを支援したりして、利用者が大切に思う、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者が日頃から顔を合わずリビングでは、座席の配置を仲の良い方同士で座っていただけるよう工夫しています。また、ご本人のお気に入りの場所の環境づくりにも努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方の様子伺いなどを行っています。また、在宅サービスに戻られた方においては、訪問診療・訪問看護が継続できるように支援しています。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケアを念頭に置き、毎月定期的にご本人の訴えを中心にケースカンファレンスを行い、本人主体のケアに努めています。	利用者の思いや意向の聞き取りに努め、「気づきメモ」や支援経過記録に書きとめています。職員間で情報を共有するためセンター方式の「私の姿と気持ちシート」に書き加える努力をしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等の情報はもとより、これまで関わってきたサービス担当者等より、多くの情報を収集しています。また、日常の暮らしの中で、ご本人から聴き取った生活歴についても、ケアプランに取り入れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズムを把握し、できることできないことを日々のケアの中で見極めていきます。 また、学習療法においても、ご本人の現状がよく理解されます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の生活において、計画作成担当者・介護職員と日々話し合い、ご家族や医師、看護師などの医療関係者とも連携を図りながら、計画を作成しています。	介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は、毎月のカンファレンスの結果を受け、まとめたモニタリングを行い、介護計画の見直しにつなげています。ただ、介護計画の支援項目について、日々の職員の介護の結果についてのモニタリングは実施されていない状況になっています。	介護計画の個別の援助項目を職員に徹底するとともに、職員による日々のモニタリングの実施が望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通常のケース記録や日誌に加え、職員のちょっとした気づきを職員全員に周知する方法を構築し、実践に生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご入居者の急変時や、外出や買い物の希望など、その都度臨機応変に要望に答えられるよう努めています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の小中学校の体験学習を積極的に受け入れ、ご入居者との交流を図っています。また、近隣のスーパーや地域の行事にも積極的に参加いただいております。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回定期往診に提携医療機関の担当医師が来苑し、ご入居者の健康管理に努めています。ほかにもご本人の希望に基づき、近隣の病院・医院等へ定期的に受診していただいております。</p>	<p>家族の同意を得て、利用者全員が協力医療機関の医師の在宅訪問診療を利用し、月2回の往診を受け、医療連携している訪問看護師が月2回の健康管理を行っています。診療科目によって、入居前からのかかりつけ医に受診する利用者には、必要の都度、通院介助をしています。また協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職の配置はありませんが、提携医療機関と連携し、看護師に訪問してもらっています。その中で、都度医療的な相談を行っています。また、24時間オンコール体制も整っており、ご利用者の心身状況に変調がある時にはいつでも相談ができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、すぐに主治医に連絡を取り、入院先病院への情報提供をお願いし、適切な治療が受けられるよう配慮しています。退院に際しては、担当医師、医療連携室相談員と密に話し合いを行い、できるだけ早い段階での退院ができるように配慮しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約条項等に、重度化した場合の対応にかかる指針、見取りに関する指針を文書及び口頭で説明を行い、ご家族等の意向を確認しています。ご家族より意向があった際には、主治医との相談の場を設け、施設でできることとできないことの説明を行っています。	ホームは看取り実施の方針を持ち指針も作って、入居契約時に利用者と家族の意向を確認しています。ただ、看取りの実績はありません。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年、施設内にAEDを設置し、その際急変時の対応等の研修を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立会の下、それぞれ昼間と夜間を想定し、防災や火災、通報訓練等を実施しています。今年度からは、地域の防災対策会議に出席し、地域との連携にも努めていきます。	年2回、併施設との合同で火災・災害避難訓練を実施し、その内1回は消防署の指導・承認のもと実施しています。職員が地域の防災対策会議に出席し、相互の協力関係を築く努力をしています。災害時の食料と水の備蓄についても実施しています。	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の生活歴を視野にいれ、人生の先輩であることを忘れず、その人の尊厳や人権に十分配慮しながら、お一人お一人を大切に、声がけを行っています。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、プライバシーや人権、接遇の研修を受け、意識の向上に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、常に自己決定ができるような声かけを行っており、表情や、姿勢、行動などでご本人の思いを汲み取れるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	サービス優先ではなく、ニーズ優先の考え方をもとに、臨機応変に日課の変更や、時間の調整を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの洋服や小物など、できる限りお持ちいただき、ご自身でその日に着る洋服などを自己決定していただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を使つての皮むきや、料理の味付けや盛り付け、食後の食器洗いなど、お1人おひとりの出来ることを見極めながら積極的に取り組んで頂いています。	月曜日～金曜日までは配食サービスを利用していますが、土・日は職員と献立を考え、買物に出かけ、調理をしています。職員で構成する給食委員会が、献立、カロリー、食品等チェックしています。利用者はテーブルふき、盛り付け、食器洗い等できることをしています。食事時には職員も利用者と同じテーブルで同じものを食し、和やかな食事風景です。必要な利用者には食材を食べやすく刻む等配慮し、食事介助も行っています。年2回は外出に出かけ、利用者の好みのもを食べる機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事メニューは栄養士がカロリーやなどを計算したものを提供しています。食事量、水分量は毎食(毎回)記録し、お一人お一人の嗜好やアレルギーなどにも配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身でできる方には声かけを行い、介助が必要な方には、職員が一人ひとり付き添い、口腔ケアを、状態に合わせてケアを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外は、排泄チェック表で記録させていただき、排泄パターンを日々分析しています。できる限り、ご本人の状態を考慮し尊厳を傷つけないように配慮しています。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導による支援を行っています。現在大半の利用者が、自立に近い状況を維持できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には適度な運動と、水分摂取の促しを行い、できる限り自然排便ができるように取り組んでいます。やむを得ず緩下剤等が必要な方は主治医とこまめに相談し、薬の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、個人によりニーズが違います。よってご本人のペースに合わせた入浴に心がけるとともに、希望があった際には、毎日でも入浴が可能です。	利用者は平均して週3回入浴しており、希望すれば毎日の入浴も楽しむことができます。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も楽しんでいます。脱衣場だけでなく浴室の床にも床暖房が設置されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には午睡の時間を設けています。また、その人の状態に合わせた生活リズムで、自由に休息できる場を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報、手順書も設置し、誤薬や服薬忘れの防止に努めており、不明な薬については、薬局担当者や提携医療機関に確認しています。また、変更があった際にはモニタリングを強化。変化や気づきを報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや生活リハビリをお一人お一人の残存能力に合わせて実施。その人の役割づくりに努め、気分転換には外出等の支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や要望にはできる限り添えるように努めています。近隣のスーパーへは買い物によく出かけています。	事業所では個別的な外出支援に特に力を入れています。歩行できる利用者、車いす利用者等状況は様々ですが、個別的に周辺の散歩、近隣のお寺、スーパーへの買い物等よく出かけています。天候や利用者の体調にもよりますが、週2回程度は外出しています。散歩がプランの中に入っている利用者もあります。また良い気候になると、お弁当を持って遠足に出かけることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際には、ご自身で支払いをしていただいています。また、ご自身で金銭管理をされておられる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、施設の電話を使用していただいております。携帯電話を持ち込んで自由にご家族と連絡を取り合っている方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの有効利用や、照明をこまめに調整しながら、空間の環境整備には気を配っています。また、全館オゾン発生装置が完備されており、空間の匂い等にも配慮しております。	各ユニットの玄関には素敵な格子戸が取り付けられています。玄関外のテラスの菜園には野菜が植えられ、季節の花が咲いています。また玄関を入ると観葉植物、手作り作品が飾られています。明るく広くてゆったりとしたリビング兼ダイニングルームには、食卓以外に、ソファーやベンチ、椅子が置かれ、掘りこたつのある和室やウッドデッキのある中庭等、落ち着ける居場所がたくさん確保されています。壁や廊下には季節毎の切り絵や折り紙作品が貼られた壁画や行事写真、書道作品等が飾られ、ゆったりとしたなごやかな雰囲気空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はすべてのご入居者が自由に使っていただけます。要所にソファなども設置し、各々がお好きなおところで過ごしていただける工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居していただく際には、これまで慣れ親しんだ家具や、使い慣れた食器など、ご家族に協力を仰ぎ、持参して頂いています。できる限りこれまでの生活と変わらないように心がけています。	居室の入口には顔写真が貼ってあり、自身の居室がわかりやすく表示しています。居室には整理タンス、籐作りのドレッサーや椅子、机、飾り棚、化粧箱、遺影、仏壇、飾り置物、人形、家族の贈った花、折り紙作品、書道作品、家族の写真、テレビなど、使い慣れた馴染みの物や生活用品を持ち込み、個性的で落ち着いた雰囲気になっており、利用者が安心して過ごせる居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの位置やタンス、テレビの位置など、その人の残存能力に合わせた配置に気を付けています。また、リビングから居室への導線にも配慮し、テーブルの位置なども工夫しています。		